

2502

昭和己卯元日

昭和十四年一月一日



七回卯の歳を迎へて

昔は因幡の白兔

今は菟美の黒兔

俺の生れはひのこの兔

今歳やつちのと兎の年よ

とこゝろで行けるか

跳ねて見る



2503

汪兆銘反蔣聲明

昭和十四年一月三日

(蔣汪と違)
捕せんとす



「汪の野郎
アチへ逃げ
た様だ」

「コチへ
逃げたか
知れぬい」

汪

「アヘミ
馬鹿お
奴等だ」



2504

平沼内閣成る

昭和十四年一月六日



平沼

「どうくお鉢が廻つて
来た。老軀、勞苦で、碌
々だが、鶴鷄の歳じゃ
で、天下黒白の別き目
といふわけであらう。」

總理	陸軍	海軍	内務	外務	大藏	司法	文部	農林	高等	拓務	鐵道	逓信	厚生	無任	輔長
平沼騏一郎	板垣征四郎	米内光政	木戸幸一	有田八郎	石渡莊太郎	塩野季彦	荒木貞夫	櫻内幸雄	八田嘉明	八田嘉明	前田米藏	塩野季彦	廣瀬久忠	近衛文磨	田辺治通

2505

伊佛抗争

昭和十四年一月十四日



波風や
三千年の

地中海

伊太利

地中海は俺のものだスエス運河の割前をよこせ、
ガブリ鉄道もこっちへ渡せ。



2506

卯歲生れの人

昭和十四年一月十五日



八才頭山 満

平沼一郎

池田成彬

一木喜徳郎

原 嘉道

望月圭介

鈴木喜三郎

頼母本桂香

財部 彪

黒田長成

幸田露伴

藤島武二

南方楠熊

佐伯定胤

伊東忠太

清水釘吉

堀啓次郎

青木菊雄

今泉嘉一郎

白石元治郎

門野重九郎

串田萬敬

服部宇之吉

山下龜三郎

廣岡宇一郎

寺内壽一

八田嘉明

畑 俊六

田王天延孝

柳川平助

入江貫一

江藤源九郎

勝 正憲

黒田英雄

田島勝太郎

古屋隆慶

阿部彦太郎

中井勵作

岩崎小弥太

宮島清次郎

平沼亮三

望月軍四郎

八並 武治

池内 宏

石原 悠

上田貞次郎

佐藤寛治

田丸節郎

西村真次

矢吹慶輝

菊地契月

永井荷風

長谷川時雨

近衛文麿

石渡巖太郎

池崎忠孝

麻生 久

原惣兵衛

田中次郎

真鍋儀十

中村左五郎

久米 正雄

宇野浩二

倉田百三

廣津和郎

三上於菟吉

七 十 三 歳

六 十 一 歳

四 十 九 歳

2507

日支の賣卜者

昭和十四年一月廿二日



日本堂



「モ一三年頑張れは支那は屈古垂れて日本は完全に勝利を得るがその先きは分らぬ。」



「モ一三年頑張れは日本は屈古垂れて民国は完全に勝利を得るがその先は分らぬ。」

民国軒



2511
 バルセロナ陥落
 (西班牙人民戦線政府亡ぶ)
 昭和十四年一月二十七日
 大正

2512

平賀東大総長勇断

河合土方面
教授退任案

昭和十四年二月二十九日



平賀

河合の悪思想、上方の悪言行
共々許し難い。大志革新
の血祭る犠牲はする。

河合
土方俺達が
悪いと思ふのは総長
の錯覚だ。

総長は自ら

大学の自治

を破壊する

ものだ。キャン〜！助けてくれ。



2513

國防第一線

昭和十四年二月九日



獨我が國防第一線はマナバであ



日本「我が國防第一線はウラル山である」



米

「我が國防第一線はライン河である」

ソ聯「我が國防第一線は鴨綠江である」

2514

病魔退治

昭和十四年二月十日

一に看病
二に医薬
三に信心



2515

皇軍海南島に上陸す

昭和十四年二月十日



海南島

澄邁湾に上陸し
瓊山、海口を占拠す

面積約一万三千九百方哩
人口約 五百萬



2516

上海テロ

昭和十四年二月二十日



界租同共

界租佛



2520

壯丁体位低下

昭和十四年三月六日



明治時代

大正時代

昭和時代



大正元年—昭和初年

昭和六七年

昭和十、十二年

千分の二五〇

三五〇

四〇〇

明治三十二年—大正十二年

昭和六年

昭和十三年

千分の二

一八

二五

三二

昭和元年

昭和十三年

一五

千分の一〇

一〇

一五

昭和元年

昭和十三年

二七

千分の二

一一

二七

二七

不合格者
肺病
腹患
視力
近視
呼吸
器病

2521

獨逸を併合しスロヴァキアを保護國とす。洪牙利はカルパトを併合せんとす。

昭和十四年三月十六日

蘇聯

羅馬尼



2522

英米、獨逸を罵る

昭和十四年三月十七日



米
傍若無人
言語道断で
ござる。

英

軒り取り強盗の
ふるまい、その俣
こは差し置かれぬ。

獨

「たツコを取るうが取るまいが
うぬ等の知つたことでふい。
わるく身動きささッしやると、
ドイツコイツの
用捨はない。

大勢

ウマイぞ金藤次

いやさヒットラー！



2523

戦時景氣

昭和十四年三月二十二日



社長
何しろ
二十割以上の
利益だから、
こう儲かつて
困るまい。



職工
へん、月収
五百円だぞ、
腰辨とは
桁が違ふんだ。



2524

祐康夭折す

猩紅熱中耳炎
脳膜炎

昭和十四年三月二十九日



六とせ餘り 手しほにかけし

おさふ見や

とわの別れに

胸は裂けつゝ

いたまじや はかふくうせし

わが孫は

いたけけざかり

よき見ありしに

康かれと祈りしものを

みほとけの

み手に引かれて

逝くぞ

悲しき



逝ける人

自正月一日
至三月三十一日

昭和十四年三月三十一日

三月
同上

平野 猷太郎 七三

ブルノ・タウト

男

田島 勝太郎 六一

町田 經宇 七五

櫻井 錠二 八二

比田井 天来 六八

今清水 乾三 七〇

加藤 芳太郎 五六

小野寺 長次郎 六五

伊東 久未藏 六六

藤岡 經平 六五

入澤 敏雄 七二

山口 丰峯 七一

池田 宏 五九

加藤 寛治 七〇

月出 藤三郎 七〇

池田 寅二郎 六一

加藤 久未四郎 五六

森 辨治郎 七二

山田 直矢 八〇

カール・フロレンツ 七五

柳川 勝二 七二

陳 蘇六二

島居 忠一 五八

中村 爲三郎 七五

同 寛子 四六

岡本 かの子 四七

三宅 忠強 五六

齊藤 博 五四

松島 鈕四郎 七八

岡本 綺堂 六八

高橋 清吾 四九

青木 昌吉 六八

釜屋 忠道 七八

藏田 万一郎 六二

浜部 源次郎 五九

飛鳥 文吉 六二

田村 順之助 八四

伊藤 金次郎 六七

福田 又一 七六

觀世 左近 四五

小泉 上之丞 六五

杉村 陽太郎 五六

上田 宗重 五六

田中 光顯 九七

伊東 祐康 七

2529

戦争は何處にある日本

昭和十四年四月二十九日



2530

政友會の末路

總裁問題

昭和十四年四月三十日



中島派

可憫蝸牛角上爭
弓牙豎子過政友

鳩山派



2531

秋田地方強震

昭和十四年五月一日



陸奥

陸中

強震中心 男鹿半島
 壊倒家屋 千五百餘
 死者 十九



2532

重慶爆撃

蔣、都を成都
に遷さんとする

昭和十四年五月四日



2533

板橋セルロイド工場爆発

昭和十四年五月九日



隣接工場
爆破燬焼
死傷數百
一キロ四方家
屋ガラス窓
紛碎原因
煙草の吹殻

2534

國歩艱難

重量八百億斤
坂路八萬八千里

昭和十四年五月十四日



2538

天下無敵双葉山閣下



昭和十四年五月二十五日

十五日間勝放シ
身長五尺九寸
体重三十四貫餘

(去年北支子遊び軍部より
陸軍中將としての待遇を受く)



2539

蒙境空戰

敵機十七を
撃墜す

昭和十四年五月二十八日



2540

鼓浪嶼問題

昭和十四年五月三十一日



日

「エー五月蠅い
奴等だ。
ぐつぐつ
ぬかす
つまみ
出す
ぞ」

英米

「これでも
俺達がこわく
おいのか？」



2541

日獨伊軍事協定問題

昭和十四年六月二日

陸海
意見
相違

獨「何をクダくして居る、早くきめろ。」

陸軍

「即時締結は
きまつてゐる。
何をツベコベ
ぬかすか、立派
な地ありぬ。」

海軍

「絶対反対だ。
向ふ見すの蠻
勇は駄目だ。
顔を洗つて
考へ直せ。」

総理
「さう
困つた
ことじゃ」



2542

金総動員

昭和十四年六月六日



2543

日本・天津英仏租界を封鎖す

昭和十四年六月十四日



日本

「何者だ？」

通すことは

まかり

あらぬ。



2547

日英會談

天津問題の
根本的談判

昭和十四年七月十五日



日
惆喝や瞞着子
乗るものか
シツカリ
禪をこめて
かいろう



英

多寡の知れた青ニオだ
惆喝と瞞着て

胡魔化して
呉れよう



2548

日英互に虚を窺ふ

昭和十四年七月十七日



日英の胸を突け

英派の日の事を蹴ろ



2549

積悪の報い(反英宣傳)

昭和十四年七月廿一日



甲 積悪の報いは觀面
覺悟しろ

乙 倭面を捨て
世界を謝罪
しろ

丙 遅くは無い、
前非を悔いて
善心で立ち歸れ

丁 ぐツくぬかすと
閻魔の唇へ
引き渡すぞ

英「ア」
五月蠅い、
もうい、加減
しろ。



昭和十四年七月廿四日 (英人の感覺)



「日」
蔣素と之れ
鶏鳴狗盗の雄、
英却て之を支持
し彼を驅て、銭と
干戈を交へしめ、
以て漢を利を
占めんとするハ
何ぞや。

英

「大體分つた
様だ。蔣は勿
論懸命苦闘
の勇だ。英は之に
師事はせぬが、彼を
買つて日本と漢貨
を交へしめ……以て巨富の
利を占めんとす……といふ處
が何の事だかよく分らない。



2551

未突如日英通商條約を廢棄す

昭和十四年七月二十八日

英 ヤンキー！
助けを
呉れ

日 不埒千万
オヤンキーめ

米 ジャップス
驚いたが
ハッハハ...



猶英日本を愚弄す

昭和十四年八月九日



佛

米

英



「英」米佛と相談して
居るんだが、まだ話がま
とまらぬ、金談は一す
待って呉れ。マーせん
ふにシヤチ
コバル赤
よ。

目

「何を馬鹿
ふ。俺は貴様と
話して居るんだ。
米佛が何だ。」



2556

日英会談決裂す

昭和十四年八月二十日



⑩「押しの一手で行ったら、
マンマと肩すかしを喰った。
サー、これからが大變だ。」



「英」
「アハハ、
豎子與し易シだ。
マンマと思ふ壺に
はめ込んでやった。」

2557

晴天の霹靂

獨ソ不可侵
協定を締結

昭和十四年八月二十二日



獨

ポーランドを料理して
羊分づゝ喰はふ

英ヤ...
大變だ



獨

日

ヤ...
言語通断

ソ

ポーランドの方より
羊口乗るが俺は
日本の料理の方だ



増税と国民生活

昭和十四年八月二十五日



① 血を膏で儲けた
金も、半分税を取り
九十九わり切れぬ



③ どう工夫して見ても
生計が立たぬ、
高貴を替へざるより
外は法はない



②

一文でも税を

納めろと云ふは、
国民の義務をつくらぬで

本懐の至りだ



④

この上税を納めろ
つては、親子三人
餓死するより外は
無い



2559

ヒットラーの二石、世界沸騰

昭和十四年八月二十六日



ヒットラー

「我れ一手を擧ぐれば日本狼狽し
一足を投ずれば英國震動す
我れ一笑すればソ聯尾を振て媚ひ來り
一擧手すれば波蘭悲鳴を擧げて狂號す
嗚呼、世界一人の我れ對抗する英雄なきや」



ヒドラーの喝日本内閣を崩壊す
大命阿部大將に降る



天に聲あり曰く

「馬鹿正直も大抵は致せ、世界の
強国といふものは皆豺狼狐狸
じゃ、眞人間じゃと思つてゐ
ると、どんふ目なあふか分ら
ぬ、よく氣をつけて、折角
我等の聲めた日本國を
潰さぬ様にしてたやれや。」



阿部信行

「よく分りました。」

此度氣を付けます。

昭和十四年八月廿九日



2561

阿部内閣成立

(任重く道遠し)

昭和十四年八月三十日



總理	阿部信行
内務	小原直
外務	阿部信行
大藏	青木一雄
陸軍	畑俊六
海軍	吉田善吾
司法	宮城長五郎
文部	河原田祿吉
商工	佐堂卓雄
農林	同
鐵道	永井柳太郎
逓信	同
拓務	金光庸夫
厚生	小原直
運輸	遠藤柳作

阿部

イラ

エンヤラヤ



軍閥員は十名以内のこと
の蔵相は三井系以外から
選外相は外交畑以外から

內蒙古自治政府成立
主席 德王

昭和十四年九月一日



2564

英佛・獨に宣戦す

昭和十四年九月三日



(英)

「波蘭を放さかい
と言ふから宣戦
するのだ。
サー行くぞ。」

(獨)

「サー、束はあつて
かゝつて来い。」



2565

ジグフリート、マジノ西要塞對峙

昭和十四年九月三日

獨国

○スウェットガルト

マレンタールト

ライン河

西瑞

バーゼル

○ナンシイ

ルクセンブルグ

比耳義

佛国

宿怨の佛独、相和する時ハ、
ライン河の濁るゝ時あり

忠太

2566

獨逸前カイゼル・ウルム才二
感慨无量 昭和十四年九月六日

ウルヘルム才二

「忘れ申しあい二十五年の昔、血氣に逸つて世界大戦を捲
き起し、疾風迅雷の勢を以て露
國を攻め入り、瞬く間にワルシャワを
占領した。が俺の衣鉢を

襲いたヒットラーが、今や
再び世界大戦を起し、
躍進してワルシャワを

奪取せんとして居る。
俺は時利あらさずし
て失脚したが、
汝ヒットラーよ、

ソ聯
エ
ラ
リ
波
蘭
ス
ホ
ン
グ
リ
ヤ
ス
ス
イ
タ
リ
ヤ
瑞
典
瑞
士
佛
蘭
德
大
獨
逸
伊
太
利
亞



又ドーカ俺の轍を
履まふ様は注
意して呉れ。

2567

海空葛藤(獨波英)

昭和十四年九月八日



2568

フルシワ陷る

(独この
虚報)

昭和十四年九月九日



獨

蠅螂が龍車に向ふとは

汝のことだ。ハッハッハ

波

豫定の

退却だ、逃げる

から足を放せ。



2569

獨波、惡闘(獨優勢)

昭和十四年九月十四日



波
一寸り
後へは引かぬ。



獨
これでも
まだくたばらぬか。

2570

日ソ停戦協定成る

昭和十四年九月十六日



日ソ
ヤレ、
と休
みだ、
アー
苦し
かった。

モシヤン

ハルハ河
河の中
日ソ国境

ソ
アー
苦し
かった、
先づ一服
だ、ヤレ。



2571

悲風慘雨・天地晦冥

昭和十四年九月二十日



英・義・諸・老・繪

支・頑・冥・不・靈

仙・魔・各・誌・勝

滅・悲・慘・修・陀・案

狂・猛・烈・無・忌



米・倭・做・証・憑

夕・陰・險・暗・蟻

2572

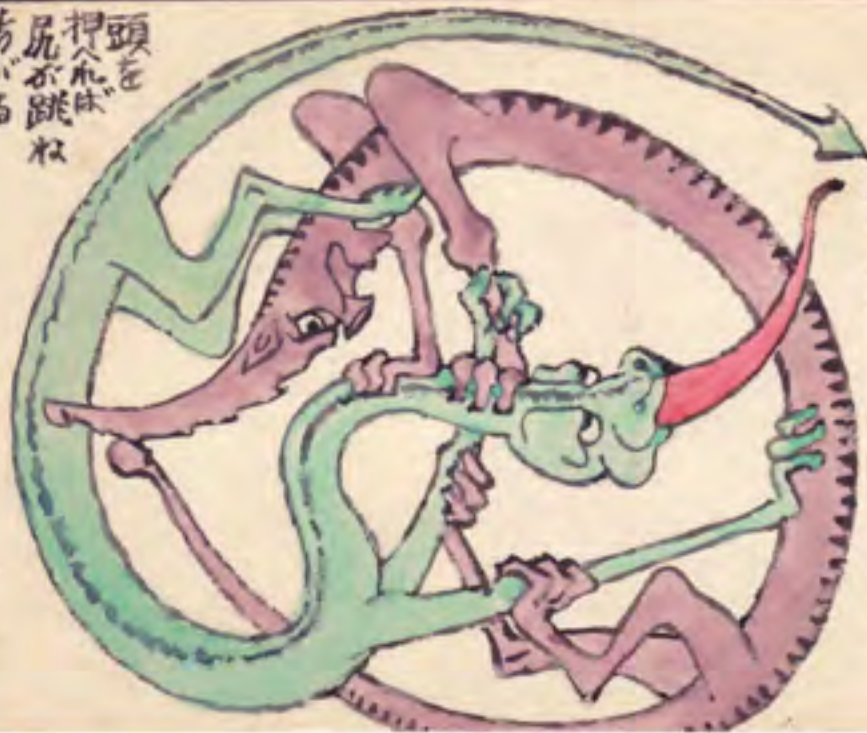
物價俸給釘付の事

昭和十四年九月二十一日



職工の最高月給六拾円に騰る

頭を
押へんは
尻が跳ね
あがる



2573

波蘭分割相談

昭和十四年九月二十日



ソ この辺
から下
を取
るぜ

独 ソリゃいかん、
そこは
俺の方
で取る



2574

寺内ヒットラー會見

昭和十四年九月廿一日



ヒットラー

「よく来たね陣中

何も御馳走は

無いが、今取り

たての波蘭

兵の生首が

ある。沢山

食って呉れ



寺内

「これは御馳走

様

支那兵よりハ

ズット来かてすよ

2575

羅馬尼首相カリネスク、親獨派の
刺客に暗殺さる

昭和十四年九月二十一日

天下蓋々
多事
あらん



2576

独神妙に
降参
致せ。

フルシャワ陥る 昭和十四年
九月二十八日
波政府をパリに移す



波
政府はパリに
引越したよ。
波蘭を潰し
度いあら
パリまで
お出で。



2577

獨英を威嚇す

昭和十四年九月三十日



獨
ヤイ
英公
るサリ
喧嘩を止めたらどうだ。
それとも波蘭の仇討がしたい
から相手はあつてやるが、
返り討ち
あるて
観
念
して
かたれ。



逝

ける人

自七月一日
至九月三十日
昭和十四年九月三十日

喜田貞吉 六九

岩永裕吉 五四

戸川秋骨 七〇

桶 糸重 六七

服部宇之吉 七三

東 武 七一

森 善吉

酒井 榮藏 六八

和田孝次郎 八一

串田 萬藏 七三

渡辺道太郎 六三

浜田 国松 七二

大山卯二郎 七〇

泉 鏡花 六七

子 松平直平 七一

本田 龍助 八八

大谷 尊由 五四

吉田 追風 八四

佐原 敏二 六三

小笠原 豊光 四九

ジエントプロイド 八三

渡辺 俊雄 六三

侯 黒田長成 七三

侯 林 泳 孝 七九

原 富太郎 七二

棚橋 絢子 一〇一

伏見宮妃親子殿下 五八

岡田 三郎助 七一

ホリビ子大親饒へちま子シユ 三五

星田 音相
カリ子 スク

松岡 道正 七〇

石川 林四郎 六一

伊藤 長右衛門 六五

2579

ヒトラー獅子吼

昭和十四年十月八日



独

「平和がいや
あら
咬み殺すぞ」

「よく吼へる
奴だ。」

未

英佛

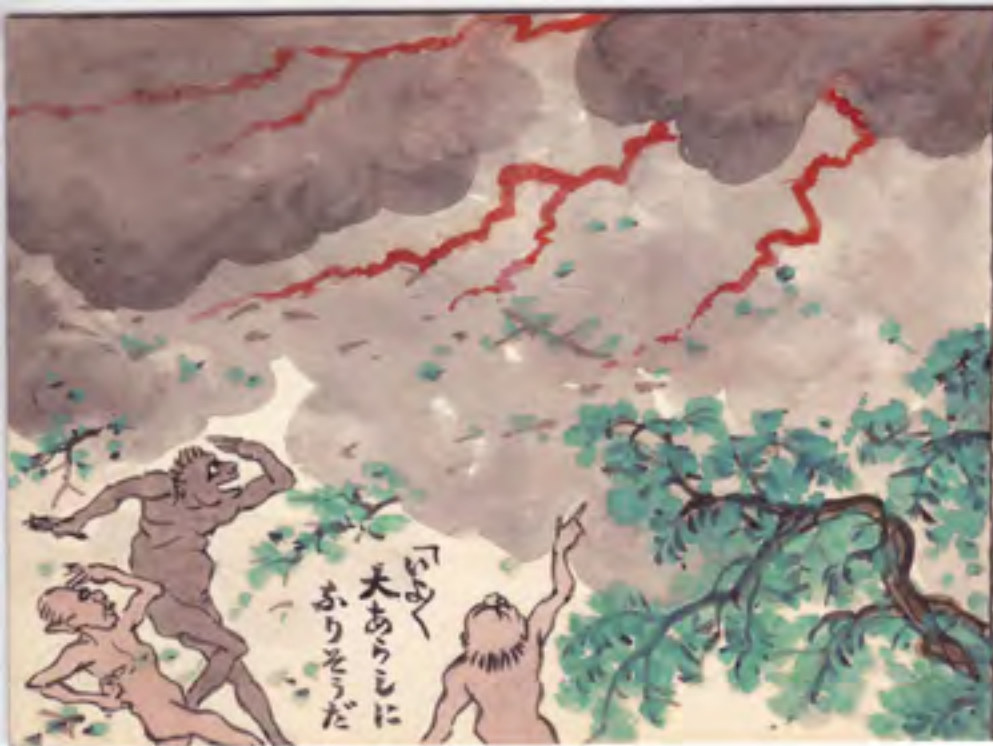
「これは
チと
気味が
悪いぞ。」



2580

風樓に満つ

昭和十四年十月十日



2581

思ひは同じ英と獨

背中合
渡り白

昭和十四年十月十一日



獨 戦争は

いやだが

英

「今更引つ込みが

つかぬ

獨

「戦争しても

英

「厭味が無い

獨

「第一そろばん

が取れぬ

英

「何とかうまい

工夫が

獨英

「よいものかふあ。



貿易省設置にからむ
外務省騒動解決す

昭和十四年十月十五日



外務属僚
おれ達の言
ふ通りに
しおけりや
勘弁お
らぬ。

外務
大臣
「お前たち
の言ふ通
りなすろ。
鎮まれ。」



「ニッポン」帰航す



者來措

楊長 中尾 秋利
 梶 中 吉田 重雄
 權 下 川 一
 技 師 佐 伯 弘
 通 信 士 佐 藤 信 貞
 八 百 川 長 作

東大毎世界(圖鑑ニホフ)

三翼式双轭输送机

中興大學集

三式金星九〇〇馬力
發動機二台裝備

翼幅二五米、全長一六米

全高三七米
連坑連更二六〇料暗

製表作時、三葉重工業

名古屋縣作助

東京着
八月廿五日
十月二十日

日教 五十六日

飛行時間 約二百時間

1



2584

支那米にすぎる

昭和十四年十月二十五日



「モー
あんふ
奴み構ツちや
居られねー」



「お旦那様どうぞ
お助け下さいませ、
後生でゆざい
ます」



「だいふ弱つてる様じゃふ」

英・日本と日英再会談を勧む

昭和十四年十月二十九日

英

「オイ、會談を
やり直そうじゃ
ないか、その方が
おまへの爲だよ。」

日

「もうその手まい
乗らないよ。だが、
真心あれば水心さ。」



2586

處かわれば名もかわる

昭和十四年十一月三日



國名	人 名
日本	尾 守
支那	敦 陳 漢
シヤム	オチャオ
北印度	アレワ
南印度	ナンダカ
ペルシア	アブトルカ
イラック	ワシヤ
トルコ	アカン
アラビア	グルグル
エジプト	アラ
希臘	アルキマスト
伊太利	ナニーオ
西班牙	ヤミヨニー
ルーマニア	シラナイカ
ハンガリー	ドツチ
波蘭	モロイナ
ソ連	ズブトイ
独逸	マゲンゼン
佛蘭	カネニー
英	チャチー
米	アリソーナ
メキシコ	タロカジャ
ブラジル	カッタカ
ペルー	マタクルカ
チリ	ケツコー
アルヘンチナ	アノネ
	ニゴシチヨラ
	シラナンダ
	シリマヘンドラ
	ハチトラーズ
	コマル
	ベール
	マワール
	アナータ
	クタビレルデス
	ミチヨルカ
	バツサリ
	ベラボー
	アツチラ
	ペギンコ
	ゴロツキー
	ベランメンブルグ
	コマラン
	キヤンポラン
	アブラトキン
	ヤルマイゾ
	エライゾ
	ウルサイナ
	ケタラーケ
	チヨット

1930年頃極東に在る在外支那の人数

日本	日本内地	40700	4092800
	朝鮮	52100	
	台湾	4000000	
フィリピン		55000	55000
佛領 印度支那	東京	52000	480000
	安南	10000	
	交趾支那	200000	
	カンボジア	148000	
	老撾	70000	
マレー		1534000	1534000
シヤン地方 及び 緬甸	シヤン地方	64000	192600
	上ブルマ	22600	
	下ブルマ	105000	
	アラカン	1000	
タイ		2500000	2500000
蘭領 東印度	スマトラ	350000	1248000
	ボルネオ(サラワク)	50000	
	北ボルネオ	48000	
	蘭領ボルネオ	150000	
	ジャバ	650000	
合計			10102400

2587

漢民族の国外在住者
(一九三〇頃極東地方居住者約千百余万)
昭和十四年十月四日



2588

ヒドラー狙撃さる

昭和十四年十一月九日

ミュンヘンに於ける
党大会日



英のスパイか
ユードの巨魁か
但し独乙の
反ふち党か

2589

鮮人改姓を許さる

昭和十四年十一月十六日



「僕は矢ッ張り
朴で徹す。
うあく
日本姓に
ふらん



「私の李も
うあく行きま
せん。李李家、
李山、李田、
どれかネツカラ
面白くありません。



「俺は金井
ひしやなか、
金子でも、
金田でもいのが
いつそ「金持」としてやろうな



2590

旅行難

昭和十四年十一月十八日



炭車

駄目だ

満員だ

駄目だと

いふのに

汽船

次の便まで

待ちなさい

駄目だ

駄目だ

自動車

ガソリンがない

んだから駄目

だよ駄目だ

駄目だ



照國丸英國近海で機雷に觸れ沈没す

昭和十四年十一月二十一日



(英)

「ドイツだ、俺じゃあい」

(日)

誰だ？

俺の大事お見を

こんお目ま逢

はしたのほ

(独)

「イギリスだ、俺じゃあい」



2592

芬ソノ國交断絶

昭和十四年十一月三十日



ソ聯
お化けだぞー



芬
こわく
あいや



雲泥の桁違い(豫算の事)

昭和十四年十二月二日



官吏

甲「委員手当千円
旅費千五百円位
でどうだろう」

乙「それは多過ぎ
るだろう、委員さん、
一人年百円として八百円、
旅費二人当り百四十五円、
四人分五百八十円
で沢山だ。」



會社員

甲「委員手当三十万円
旅費六十万円位
したらどうだ、

乙「マァ、そう位でよから
う、七億円の大會
社だからふち、



2594

物價暴騰

昭和十四年十二月八日



「素敵お掘り出し物だ、
先月千五百で手に入
れたのが、
今あらうとく
と一萬
円だね



「そりや僕が
この春
七円といふのを
五円に値切つて
買ひそこふた
辰砂の壺だよ、



2595

悪まれ兒世にはびこる

昭和十四年十二月十二日



「そこ退け
そこ退け
けお馬
か通り



2596

危かい兒戲

昭和十四年十二月十八日



2597
①

獨戰艦シベール國沖に自爆す

昭和十四年十二月十八日

タフ・マシベール



2597

②

混沌たる世界の紛擾

昭和十四年十二月二十三日



2598

②

戦争三世相

昭和十四年十二月二十九日



腕力時代

①



器械時代

②



外交經濟時代

③



2598

死亡率と餘命

昭和十四年十二月廿三日



昭和十年国勢
調査に據る死
亡率（人口千人に
つゝ）

年齢	男子	女子
一〇歳以下	一一・三・〇	九・九・二
一〇歳以上一四歳以下	三・七・〇	三・五・三
一五歳以上一九歳以下	二・四・〇	二・五・〇
二〇歳以上二四歳以下	四・八・〇	七・〇・〇
二五歳以上二九歳以下	一・〇・〇	九・六・〇
三〇歳以上三四歳以下	九・二・〇	九・一・〇
三五歳以上三九歳以下	七・七・〇	八・一・〇
四〇歳以上四四歳以下	七・六・〇	八・二・〇
四五歳以上四九歳以下	八・九・〇	九・〇・〇
五〇歳以上五四歳以下	一一・九・〇	九・五・〇
五五歳以上五九歳以下	一七・三・〇	一一・一・〇
六〇歳以上六四歳以下	七・六・七	五・三・三
六五歳以上六九歳以下	七・〇・〇	五・〇・〇

なほわが國民の平均余命（將來何年生きるかの年數）も、昭和十一年の調査により、昭和十一年より何れも二年から三年延長になつてゐる。



平均餘命

男	女
一〇歳以下	一〇・三・〇
一〇歳以上一四歳以下	一〇・三・〇
一五歳以上一九歳以下	一〇・三・〇
二〇歳以上二四歳以下	一〇・三・〇
二五歳以上二九歳以下	一〇・三・〇
三〇歳以上三四歳以下	一〇・三・〇
三五歳以上三九歳以下	一〇・三・〇
四〇歳以上四四歳以下	一〇・三・〇
四五歳以上四九歳以下	一〇・三・〇
五〇歳以上五四歳以下	一〇・三・〇
五五歳以上五九歳以下	一〇・三・〇
六〇歳以上六四歳以下	一〇・三・〇
六五歳以上六九歳以下	一〇・三・〇
七〇歳以上七四歳以下	一〇・三・〇
七五歳以上七九歳以下	一〇・三・〇
八〇歳以上八四歳以下	一〇・三・〇
八五歳以上八九歳以下	一〇・三・〇
九〇歳以上九四歳以下	一〇・三・〇
九五歳以上九九歳以下	一〇・三・〇
一〇〇歳以上	一〇・三・〇



昭和の男の平均余命を比べても日本の六十歳五月に比し、愛國は六十六歳十月、米國六十六歳、ドイツ六十八歳二月、フランス六十三歳四月となつてゐる。

2599
①

逝ける人

自昭和十四年十月一日
至同 十二月三十一日

昭和十四年十二月三十一日



中野忠太郎六

宇ノヒスアレキサダ

小橋 一太吉

出雲寺通次郎六二

岡 胤信八

齋藤教悦郎五六

結城礼一郎六

後藤松吉郎九一

中村進午吉

松村介石八一

下平 尚六

加藤敬三郎六七

磯村豊太郎七

川村数郎六

鈴木紋次郎六

呉 佩 孝六

阪谷琴子吉

タラスニアバシクス五六

氏家謙曹七

小久保 喜七五

岡 毅五

寶岡善教七二

久保猪之吉六

山崎紫紅六五

田中 智学

鶴田頑次郎七五

岡 實六

成毛金次郎七八

下野直太郎七四

カネタンスヘンリックハロ

古宇田 晶五

河原 作七八

